

## 2016年度 MBAゼミ シラバス

担当 鈴木竜太

- 目的① 組織行動論、組織論、経営管理論の考え方について理解をすること
- 目的② 論文作成の基本的知識（方法論や論文の考え方など）を修得すること
- 目的③ MBA論文のリサーチプロポーザルを作成すること

演習では専門職学位論文の論文指導を行います。組織行動論、経営組織論、経営管理論、人的資源管理論、キャリア論といった組織における人に関わる領域に関するテーマを扱います。組織の中の「人」に焦点をおいたテーマを扱います。ただし人に焦点を当てるものの、常に組織（企業や職場）と個人、組織（企業や職場）の中の個人といった関係の中から検討をします。また専門職学位論文の作成を通じて、具体的な経営現象を科学的に把握、分析、検討するスキルを身につけることも目指します。

学位論文はゼミで言われたことをすれば完成するものではありません。ゼミでのコメントや議論を踏まえて、自分でマネジメントする意識を常にもってください。

### 【ゼミの考え方】

良いリサーチコミュニティ（ゼミ）から良い研究は生まれますし、良い研究を個々人が志さなければ良いリサーチコミュニティ（ゼミ）は成り立ちません。自分の研究だけに興味を持つのではなく、他のメンバーの研究にも強い興味をもってほしいと思います。良いアイデアは必ず活発な議論の場から生まれます。ゼミは共通の興味をもった人々の集団です。ぜひゼミ中、オフライン、オンラインで活発な議論をしましょう。

### 【購入書籍】（下記の書籍をゼミで読みますので購入しておいてください）

佐藤健二「現代社会学ライブラリー18 論文の書き方」弘文堂（2014年）

浦上昌則・脇田貴文「心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方」  
東京書籍（2008年）

井上達彦著「ブラックスワンの経営学」日経BP社（2014年）

【スケジュール】

Date & Time	テーマ	内容
9/3(8:50-12:10)	イントロダクション 良い問いとは何か	自己紹介 研究の考え方と進め方
9/24(8:50-18:30)	研究における理論の扱い方 修士論文発表会	文献、理論の使い方 修士論文発表会（午後）
10/15(13:20-18:30)	研究の方法論	定量的分析の考え方と方法 定性的分析の考え方と方法 論文の読み方
11/5(13:20-18:30)	研究テーマの開拓	既存研究の検討 研究テーマの議論
12/10(8:50-12:10)	論文のプロセスを考える	MBAOBの発表 RPの説明
2/4(8:50-18:30)	研究の進捗発表①	RPの発表
3/4(8:50-18:30)	研究の進捗発表②	RPの発表

**【Day1: Session 1, 2 (9/3 8:50-12:10)】** イントロダクション

最初のセッションでは自己紹介をしたいと思います。それぞれご自身のバックグラウンドと自分が関心を持っている研究テーマについて話してください。その際に関心を持っている研究テーマについてリーディングを踏まえて、クエスチョンを用意するようにしてください。その後研究について問いと文献との付き合い方について考えていきます。

**<Reading Assignment>**

#1 ビジネスインサイト 論文道場 國分先生執筆回、理論との付き合い方  
(配布します)

#2 佐藤健二「現代社会学ライブラリー18 論文の書き方」第1章、第4章、第5章（できれば2、3章も読んでみてください）

**<Assignment>**

#1 自分の（今考えている）研究テーマを簡単に説明できるように考えてきてください。その際に、リーディングを参考に自分が考えたい問いを一つ以上考

えてきてください。(パワーポイント1枚で用意 \*口頭で説明することも含め、資料は簡潔に作成すること)

### 【Day2: Session 3, 4, 5, 6, 7 (9/24 8:50-18:30)】

この日、午前中はゼミでのセッション、午後は修士論文発表会への出席となります。午前中は学術論文の探し方、読み方について説明します。

午後は修士論文発表会へ参加することになります。次のことを考えながら発表会に臨んでください。

- ① 研究の問いはなんだったか、そしてそれにどう答えたか
- ② 問いはなぜ興味深い(深くない)のか、答えはなぜ興味深い(深くない)のか

#### <Reading Assignment>

- #1 ビジネスインサイト 論文道場 文献との付き合い方 (配布します)
- #2 浦上昌則・脇田貴文「心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方」第1章、第2章

#### <Assignment>

- #1 再び自分の(今考えている)研究テーマに関して、Day1での議論をもとに、自分が考えたい問いについて研究関心とともに A4 1枚でまとめてきてください。

### 【Day3: Session 8, 9, 10 (10/15 13:20-18:30)】

この日は研究の進め方として、文献の活かし方、アンケートによる統計的分析方法、インタビューなどによる定性的分析方法に関して説明します。詳しい部分は自分で研究を進めた時に再び勉強してもらいたいと思いますが、ここでは入り口として考え方や大まかな進め方など、リサーチプロポーザルを考える上で必要な知識を学びます。

#### <Reading Assignment>

- #1 ビジネスインサイト 論文道場 ケーススタディの方法、サーベイリサーチの基礎概念、文献との付き合い方 (配布します)
- #2 井上達彦著「ブラックスワンの経営学」日経BP社(2014年)
- #3 佐藤健二「現代社会学ライブラリー18 論文の書き方」弘文堂(2014年) 第6章、第7章、第8章、第9章

#### <Assignment>

#1 Day2 の議論をもとに、Day4 の Assignment を踏まえて関連しそうな論文を探索してリストアップしてきてください。

#2 自分の考えている研究テーマと問いに対して、どんなデータを得ることで答えが出せそうか（なぜその問いにそのデータが有効か）を考えてください。その上で、自分が進めていく上で、このセッションで聞きたいこと、知りたいことを考えてきてください。

#### 【Day4: Session 11, 12, 13 (11/5 13:20-18:30) 研究テーマの開拓】

このセッションでは、いよいよそれぞれの研究テーマについて議論をしていきます。それぞれの研究テーマについて各自リサーチプロポーザルを作ってください。ゼミでは、テーマに近い人をまとめて問題関心を共有しながら議論を進めてみたいと思います。

##### <Assignment>

#1 11/3 (Day) までに自分の研究について Appendix のリサーチプロポーザル (RP) をもとにして RP の素案メールしてください（簡単で結構です）。依然として複数の候補のテーマで迷っている人は、2つまで OK です。

#2 一人 1 本（もちろん 2 本でも良いです）自分の研究の中心となると思われる論文を探してその内容を Day3 の議論をもとにレジюмеにまとめてきてください。その際に内容だけでなく、なぜその論文を選んだのか、その論文を読んで自分の研究に使えるところ、この研究の問題点にも触れてください。

#### 【Day5: Session 14, 15, (12/10 8:50-12:10) 研究プロセスを考える】

このセッションでは、MBA の皆様の先輩をお呼びして、体験談を話してもらいたいと思っています。後半のセッションは今の所開けてあります。これまでのセッションを振り返りながらリサーチプロポーザルを作る上で重要な点について質問などを交えて議論する予定です。

#### 【Day6: Session 16-20 (2/4 8:50-18:30) リサーチプロポーザルの発表】

#### 【Day7: Session 21-25 (3/4 8:50-18:30) リサーチプロポーザルの発表】

各自 2016 年内には緩やかに研究テーマが決まってほしいと考えています。その上で、実際の研究が 2017 年からスタートすると考えてください。2016 年度最後の 2 回はリサーチプロポーザルを完成させることを目指します。これまで

のセッションを振り返りながら、リサーチプロポーザルを作成してください。

<Assignment>

#1 Appendix のリサーチプロポーザルをもとにしてリサーチプロポーザルを作成、ブラッシュアップしてください。

### <参考文献>

余裕のある人は、下記の文献も参照してみてください。セッションの内容がより深く理解できると思います。

伊丹敬之「創造的論文の書き方」有斐閣、2001年

佐藤郁也「社会調査の考え方（上・下）」東京大学出版会、2015年

### <Appendix>

リサーチプロポーザル

#### 1 研究テーマ

1.1 どうしてその研究テーマに関心があるのか？（問題意識）

1.2 どうしてそのテーマが大事か？（自分にとって、会社にとって）

#### 2 研究上の問い

2.1 なぜその問いがわからないのか？

2.2 なぜ1年かけて問う必要があるか？

#### 3 参考にする理論や概念

3.1 その理論や概念はなぜこの問いにとって有効か？

3.2 他に見込みがありそうな理論や概念は何か？

#### 4 調査方法

4.1 その調査方法はなぜこの問い、研究にとって有効か？

4.2 そこでどんなデータを得ようと思うか、そのデータがあるとどうして問いに答えられるのか

4.3 データの入手可能性はどうか？

#### 5 予想される結論（仮説）

5.1 どんな答え（結論）をイメージしているか？

5.2 その答え（結論）は問いに対応しているか？

5.3 その結論は1.2において意味ある結論か？

#### 6 次回の発表までの予定